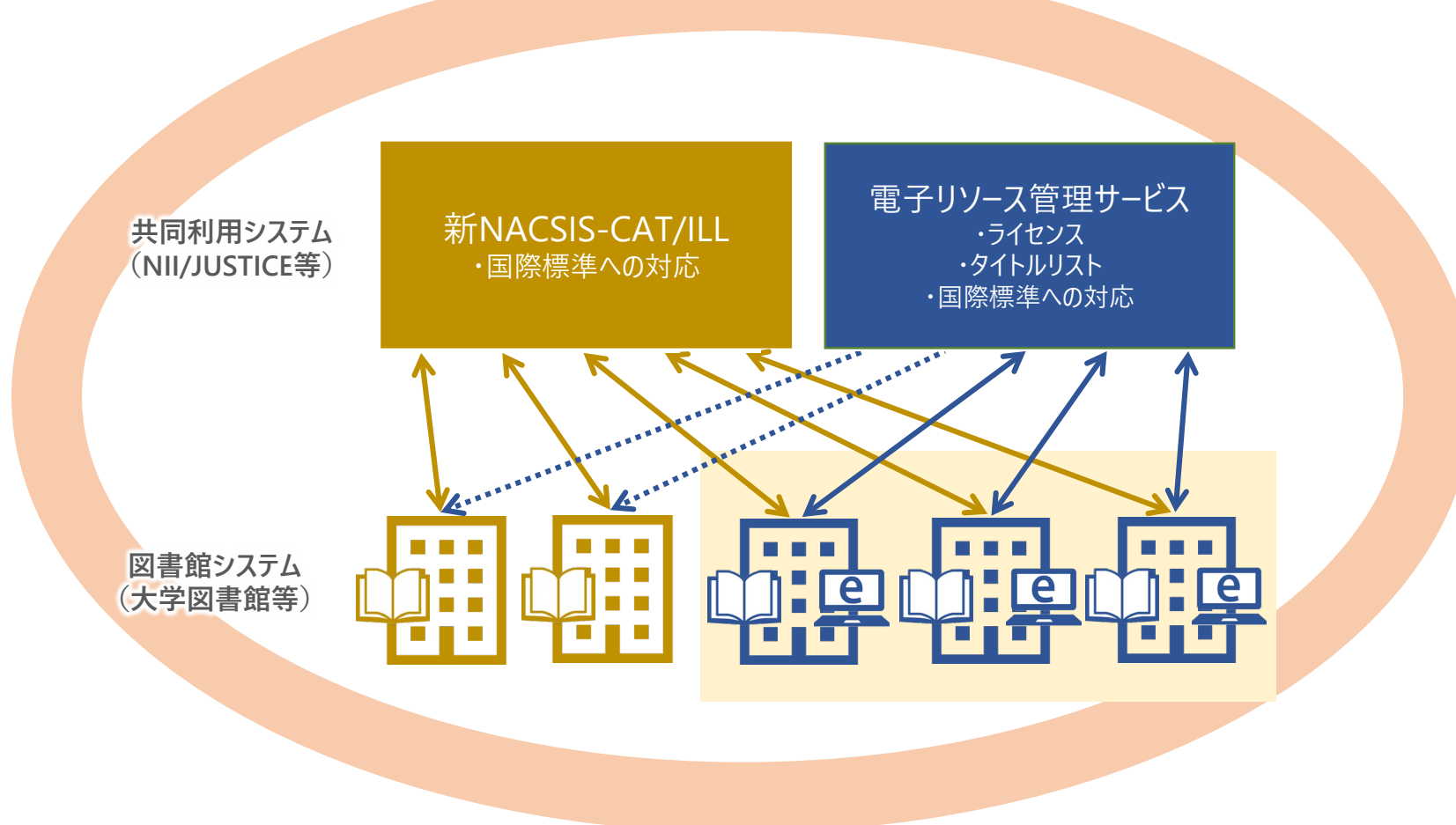




参加型でつくる (大学) 図書館システム・ ネットワーク

これからの学術情報システム構築検討委員会
システムモデル検討作業部会
栗谷禎子(公立はこだて未来大学)

(大学) 図書館システム・ネットワーク



※ 国立情報学研究所 ニュースリリース (2021年6月17日付)
『大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新 - 学術資料のデジタル化に対応した目録所在情報サービスを2022年から順次運用開始』より

これからの学術情報システム構築検討委員会

システムモデル
検討作業部会

システムワークフロー
検討作業部会

- 持続可能な運用体制の構築
- システムの共同調達・運用に向けた課題検討

- 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークのモデル構築

※『これからの学術情報システムの在り方について（2019）』より

各作業部会が取り組む課題

システムワークフロー検討作業部会

- (1) 国内電子書籍の書誌情報共有
- (2) 電子リソースデータ共有
- (3) 国内デジタルアーカイブの流通促進
- (4) メタデータ流通の高度化
- (5) 統合的発見環境の整備
- (6) 図書館システム整備（共同調達も想定）

※ 『第32回これからの学術情報システム構築検討委員会配布資料No.2-1：2021年度活動報告および2022年度活動計画』より

各作業部会が取り組む課題

システムモデル検討作業部会

- (1) 各機関や図書館がシステムのユーザとしてだけでなく、学術情報基盤をともにつくる参加者となれるような体制づくり
- (2) システムの共同調達・運用モデルの課題検討

➡ コミュニケーションの強化を図る

※ 参考『第32回これからの学術情報システム構築検討委員会配布資料No1-2：2022年度活動計画（案）』

コミュニケーション強化のための提案

多種多様なNACSIS-CAT/ILL等の参加機関と事情：

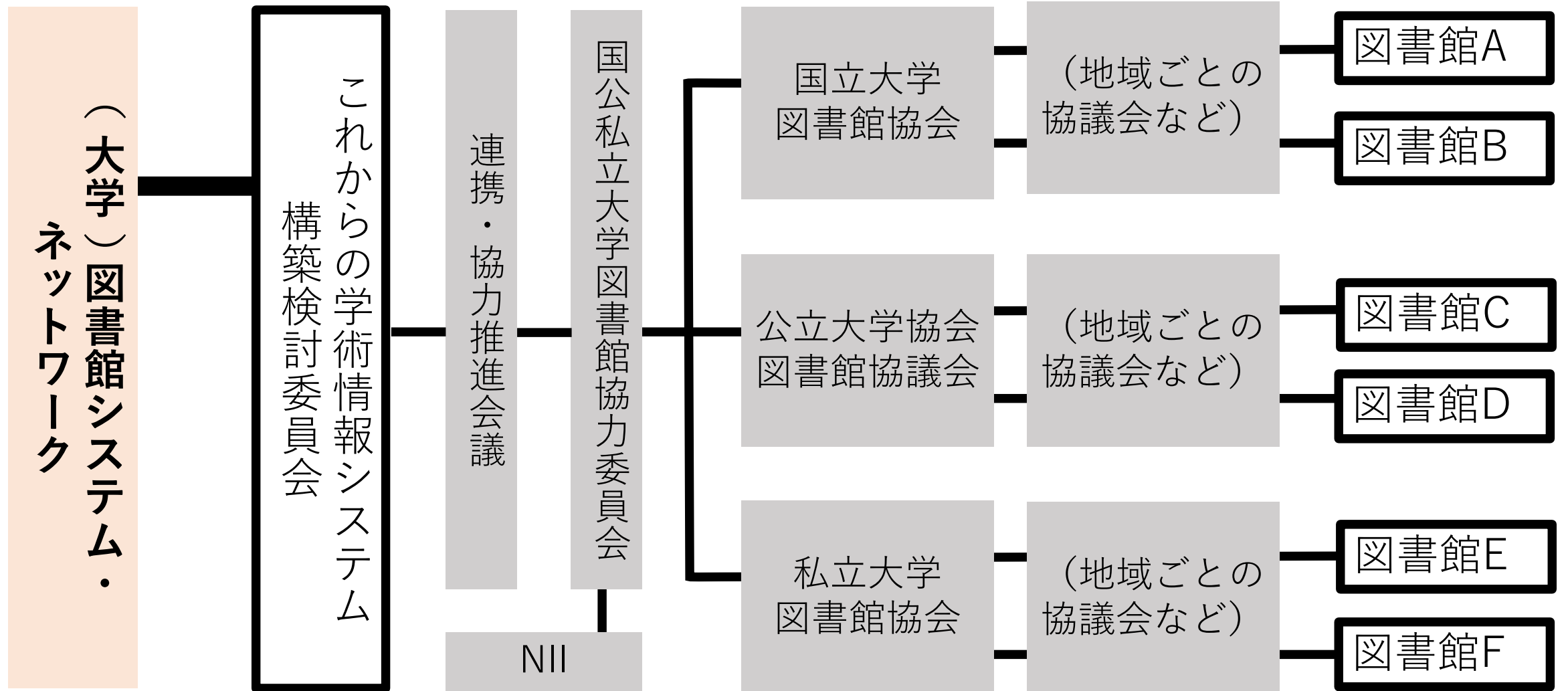
- ・分野（総合系、文系、理系など）
- ・各参加機関における情報化の進捗度合い
- ・大学の規模、職員体制、予算措置など



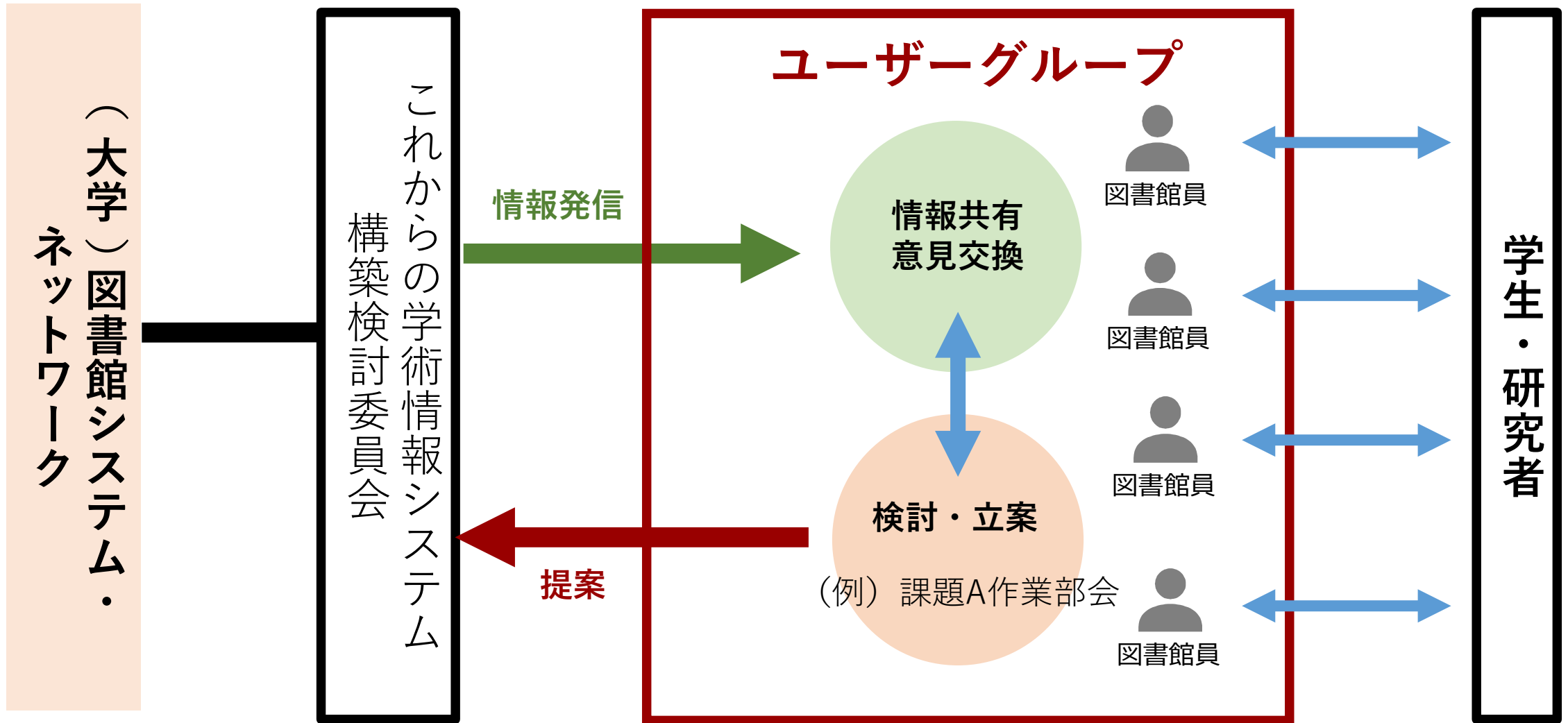
**情報や課題の共有、意見交換の場として、
ユーザーグループを作る**

※ 参考『第32回これからの学術情報システム構築検討委員会配布資料No1-3：学術情報基盤を支える組織案 コミュニケーション強化モデル』

現在の課題検討の体制・情報の流れ（イメージ）



ユーザー参加型の課題検討体制（イメージ）



ユーザーグループの役割・メリット

- これからの学術情報システム構築検討委員会、「（大学）図書館システム・ネットワーク」の参加機関とそこに所属する職員が、機関、地域、担当を越えて、意見や情報の交換を行う。
- 各機関が抱える課題や要求が顕在化され、共通課題の解決を図ることができる。
- 継続することで、学術情報コミュニケーションに関わる人材の育成、能力開発の場となる。

ユーザーグループの手段・スケジュール

手段

- 運用のための作業部会の設置
- ウェブやSNSの活用
- イベントの開催

スケジュール

- 2022年度：準備期間
- 2023年度：ユーザーグループ活動開始

ご清聴ありがとうございました。